

# 令和元年度 学校評価結果報告書(中間評価)

様式2	令和元年度自己評価シート(中間評価) .....	1
様式3	令和元年度自己評価シート(中間評価まとめ) .....	5
様式6	令和元年度学校関係者評価シート(中間評価) .....	7

広島県立佐伯高等学校

様式2

令和元年度自己評価シート（中間評価）

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	------	-----	----

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
<b>1 主体的な深い学びを通して、夢や目標の実現に向けて真摯に取り組む生徒を育てる。</b>				
①深い学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題を設定した授業が推進され、生徒の意識・行動が変容している。	○オーセンティックな学び、聴き合う関係づくり、ジャンプ課題の設定を取り入れた授業づくりを推進する。 ○生徒による授業評価アンケートを実施する。	B	・生徒による第1回授業アンケートの肯定的回答率：83% ・自分から進んで学んでいると回答した生徒の割合：81%	教務 教科
②常に学び合う協働的な教職員チームとして、自らの資質・能力の向上を図っている。	○教員一人2回以上(年間)の授業公開・協議会を実施する。 ○深い学びの推進に係る校内研修会を実施する。	B	・授業公開回数：8回 ・校内協議会1回当たりの参加人数の平均：4.5人	教務 教科
③生徒一人ひとりの進路希望の実現に向けて、組織的に取り組む。	○計画的、組織的に個人面談を行う。 ○各学年の進路検討会議を行う。	B	・進路指導部による全生徒面談：2回(3年)、1回(1・2年)実施 ・進路検討会議：3年1回実施、2年0回	進路指導 学年

〔 A：計画はとても順調に進んでいる。 B：計画は概ね順調に進んでいる。  
C：計画はあまり順調に進んでいない。 D：計画はまったく順調に進んでいない。 〕

【評価結果の分析】

【教務部】

○生徒による第1回授業アンケート結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1学年	2学年	3学年	平均
自分から進んで学んでいる	91	77	77	81
課題解決学習に積極的に取り組む	87	80	86	84
グループやペア学習は理解が深まる	96	91	77	89
誤答の理由を確かめて考える	83	77	68	76
以前より学力が付いたと感じる	74	71	86	76
どのような順番で説明すると良いか考える	96	91	82	90
全学年平均				83

○「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合は、目標値の80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、ほぼ90%となっており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着して、高評価につながったと考えられる。一方、それ以外の項目では、学年によってばらつきが見られ、全体平均では83%となった。

○校内授業研究会は計画通りには開催できなかった。1回あたりの参加者平均は4.5人であった。

【進路指導部】

○進路指導部による全校生徒の面談を行い、各生徒の進路希望を把握した上で、担任と連携して、

個々に応じた進路情報の提供や指導を行った。

- 3 学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有した。全教職員が、一人一人の生徒と向き合い、組織的・計画的に進路指導を行った。

【今後の改善方策】

【教務部】

- 引き続き、各授業において、学びの環境を整えるとともに、生徒一人一人の学びを見とる力を向上させる。また、校内の授業研究・研修会へ積極的に参加し、研修を深める。

【進路指導部】

- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、3 学期には2 学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有して指導を行う。
- 模擬試験や各種検定試験の受験に向けた指導や、受験後の指導を充実させる。

2 社会人としての基礎を培い、基礎的人間力を身に付けた生徒を育成する。				
①自律心を育み、規範意識を考え実行できる能力・態度を育成する。	○挨拶、言葉遣い、服装、時間について日常的に全教職員が声かけを行う。 ○組織的な指導体制づくりを行う。	C	・遅刻 0 回の生徒の割合：84% ・特別な指導対象者数：3 名	生徒指導 ・保健
②生徒会活動、部活動、地域貢献活動等を活性化し、自己肯定感を高め、地域を愛する生徒を育てる。	○生徒会活動、部活動、地域貢献活動を積極的に行い、地域を知り、地域の課題を発見し、課題解決に向けて探究的に取り組む生徒を育成する。	C	・学校行事に積極的に参加する生徒：80% ・自己に対する肯定的評価をしている生徒：81%	生徒指導 ・保健 学年
③異文化交流等を通じてグローバルマインドを向上させる。	○姉妹校交流を充実する。 ○異文化交流イベント等を積極的に紹介する。	B	・姉妹校受入：1 回	進路指導
④特別支援教育の視点をもった教育活動を推進する。	○気になる生徒や欠席の続く生徒について教員間の連携を密にし、生徒の心身両面にわたる支援を充実させる。	B	・特別支援教育に係る研修会開催回数：1 回	生徒指導 ・保健

【評価結果の分析】

【生徒指導・保健部】

- 1 学期中の生徒指導上の遅刻者数は1 学年生徒 1 名、2 学年生徒 8 名、3 学年生徒 4 名、遅刻 0 回の生徒は 67 名であった。年度当初から 9 月まで遅刻をしなかった生徒の割合は 84%で、目標値 90%を下回る結果となった。
- 特別な指導については、2 学年生徒 2 名、3 学年生徒 1 名に特別な指導を行い、生徒自らが自律心や規範意識を考えて実行できる能力・態度や自己肯定感を育てるために、組織的に特別な指導に取り組んだ。
- 第 1 回生徒アンケート（2 学期初め 9/12 実施）結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
①学校行事は、自分から進んで参加する	82	86	68	80
②学校でみんなと一緒に活動する事は楽しい	88	92	82	88
①②全学年平均				84
自分の良さは、周りの人から認められている	74	88	77	82

2学期を中心に、体育祭、合同文化祭等の学校行事及び地域貢献活動等が予定されているため、主体的かつ積極的に取り組む生徒の増加が期待できる。

- 自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合は、目標値 88%を下回った。約 2 割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。

**【国際交流】**

- 5/27 に台湾の姉妹校生徒 16 名と引率教員 2 名が来校し、全校生徒と異文化交流を行った。生徒の台湾修学旅行に対するモチベーションを高め、姉妹校訪問時の立案のきっかけを作ることができた。

**【今後の改善方策】**

**【生徒指導・保健部】**

- 生徒との個別面談を充実させるとともに、生徒に係る連絡会議を毎週行い、引き続き、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の育成に取り組む。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるように、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒自身が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。

**【国際交流】**

- 姉妹校訪問の事前事後の指導を充実させる、短期海外留学希望者の希望を叶えることができるよう、指導、助言を行い、ひとりでも多くの海外渡航者を増やすよう、情報収集と情報発信に心掛ける。

3 地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。				
① 中学校との連携や魅力的な広報活動を通して、生徒の募集に努める。	○生徒・保護者の期待に応える学校説明を行う。 ○オープンスクールを充実させ、授業体験を組み込む。	B	・オープンスクール参加者数：50 名 ・参加者アンケートによる満足度の割合 学校説明：100% 模擬授業：100%	総務
② 学校教育活動について、タイムリーな情報発信を行い、計画的かつ丁寧な広報に努める。	○毎週更新を行い、タイムリーな情報発信を行う。 ○本校の魅力 P R の工夫を行う。	B	・学校ウェブサイトの月当たり平均更新回数：9.25 回	総務
③ 働きやすい職場環境づくりを目指し、組織的・継続的に業務改善を推進する。	○積極的に業務の改善に取り組む。 ○協働する教職員チームとして業務を遂行する。	B	・業務改善に取り組んだ件数：5 件	全分掌

**【評価結果の分析】**

**【総務部】**

- 6/29(土)にオープンスクールを実施し、昨年度に引き続き本校生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内全中学校へ P R 郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。50 名(中学生 35 名、保護者等 15 名)の参加があり、目標値の 70 名は下回った。
- オープンスクール参加者アンケートによる満足度は 100%となり、「不満・やや不満」と回答したアンケート項目は全くなかった。
- ウェブサイトの内容を充実させるために、校長のつぶやきなどタイムリーに情報を掲載させるよう努力するとともに、部活の内容を充実した。ウェブサイト更新については、不十分な部分

も多く、さらに改善をする必要がある。

**【全分掌】**

- 具体的な業務改善の取組として、職員朝礼レジメのデジタル化、組織的な生徒指導体制の構築、電話機交換に伴う短縮ダイヤルの設定やナンバーディスプレイ、教職員間のデータ受け渡しフォルダの利用、定期的なグラウンドの草取り等環境整備などを行っている

**【今後の改善方策】**

**【総務部】**

- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び学校の魅力化PR等の広報活動をさらに充実させ、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

**【全分掌】**

- 今後も効率的な会議運営や業務の見直しを進めるとともに、風通しがよく、働きやすい職場環境づくりを推進していく。また、学校の組織的対応を図り、業務の流れを改善し、個々の教職員のモチベーションをアップさせていく。

## 令和元年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	------	-----	----

## 1 評価結果の分析

## 【教務部】

○生徒による第1回授業アンケート結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
自分から進んで学んでいる	91	77	77	81
課題解決学習に積極的に取り組む	87	80	86	84
グループやペア学習は理解が深まる	96	91	77	89
誤答の理由を確かめて考える	83	77	68	76
以前より学力が付いたと感じる	74	71	86	76
どのような順番で説明すると良いか考える	96	91	82	90
全学年平均				83

○「自分から進んで学んでいる」と回答した生徒の割合は、目標値の 80%を上回った。また、「グループやペア学習は理解が深まる」の項目では、ほぼ 90%となっており、本校の授業スタイルはもとより、「一人残らず」生徒の学びを見とる授業実践が定着して、高評価につながったと考えられる。一方、それ以外の項目では、学年によってばらつきが見られ、全体平均では 83%となった。

○校内授業研究会は計画通りには開催できなかった。1 回あたりの参加者平均は 4.5 人であった。

## 【進路指導部】

○進路指導部による全校生徒の面談を行い、各生徒の進路希望を把握した上で、担任と連携して、個々に応じた進路情報の提供や指導を行った。

○3 学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有した。全教職員が、一人一人の生徒と向き合い、組織的・計画的に進路指導を行った。

## 【生徒指導・保健部】

○1 学期中の生徒指導上の遅刻者数は 1 学年生徒 1 名、2 学年生徒 8 名、3 学年生徒 4 名、遅刻 0 回の生徒は 67 名であった。年度当初から 9 月まで遅刻をしなかった生徒の割合は 84%で、目標値 90%を下回る結果となった。

○特別な指導については、2 学年生徒 2 名、3 学年生徒 1 名に特別な指導を行い、生徒自らが自律心や規範意識を考えて実行できる能力・態度や自己肯定感を育てるために、組織的に特別な指導に取り組んだ。

○第1回生徒アンケート(2 学期初め 9/12 実施)結果の肯定的回答率(%)

質問項目	1 学年	2 学年	3 学年	平均
①学校行事は、自分から進んで参加する	82	86	68	80
②学校でみんなと一緒に活動する事は楽しい	88	92	82	88
①②全学年平均				84
自分の良さは、周りの人から認められている	74	88	77	82

2 学期を中心に、体育祭、合同文化祭等の学校行事及び地域貢献活動等が予定されているため、主体的かつ積極的に取り組む生徒の増加が期待できる。

○自己に対する肯定的評価をしている生徒の割合は、目標値 88%を下回った。約 2 割の生徒の自己肯定感の醸成が課題である。

## 【国際交流】

○5/27 に台湾の姉妹校生徒 16 名と引率教員 2 名が来校し、全校生徒と異文化交流を行った。生徒の台湾修学旅行に対するモチベーションを高め、姉妹校訪問時の立案のきっかけを作ることができた。

## 【総務部】

○6/29(土)にオープンスクールを実施し、昨年度に引き続き本校生徒が主体的に運営していくよう指導し、中学生・保護者の期待に応える学校説明となるよう内容の工夫と充実に取り組んだ。また、県内全中学校へ PR 郵送を行うとともに、積極的な広報活動を行った。50 名(中学生 35 名、保護者等 15 名)の参加があり、目標値の 70 名は下回った。

- オープンスクール参加者アンケートによる満足度は100%となり、「不満・やや不満」と回答したアンケート項目は全くなかった。
- ウェブサイトの内容を充実させるために、校長のつぶやきなどタイムリーに情報を掲載させるよう努力するとともに、部活の内容を充実した。ウェブサイト更新については、不十分な部分も多く、さらに改善する必要がある。

#### 【全分掌】

- 具体的な業務改善の取組として、職員朝礼レジメのデジタル化、組織的な生徒指導体制の構築、電話機交換に伴う短縮ダイヤルの設定やナンバーディスプレイ、教職員間のデータ受け渡しフォルダの利用、定期的なグラウンドの草取り等環境整備などを行っている

## 2 今後の改善方策

#### 【教務部】

- 引き続き、各授業において、学びの環境を整えるとともに、生徒一人一人の学びを見とる力を向上させる。また、校内の授業研究・研修会へ積極的に参加し、研修を深める。

#### 【進路指導部】

- 生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、3学期には2学年生徒の進路検討会議を実施し、生徒の進路状況を全教職員で共有して指導を行う。
- 模擬試験や各種検定試験の受験に向けた指導や、受験後の指導を充実させる。

#### 【生徒指導・保健部】

- 生徒との個別面談を充実させるとともに、生徒に係る連絡会議を毎週行い、引き続き、教職員間の情報共有を密に図り、組織的な生徒の育成に取り組む。
- 学校行事等において、生徒が主体的に企画や運営ができるように、指導の工夫・改善を行う。
- 生徒自身が自分の良さを発見し、協働して課題を発見し解決していく活動を充実させる。
- 特別支援教育の視点をもった教育活動を推進するため、校内特別支援教育推進委員会を充実させるとともに、個別の支援計画・指導計画に基づいて、生徒の心身両面にわたる支援を行う。

#### 【国際交流】

- 姉妹校訪問の事前事後の指導を充実させる、短期海外留学希望者の希望を叶えることができるよう、指導、助言を行い、ひとりでも多くの海外渡航者を増やすよう、情報収集と情報発信に心掛ける。

#### 【総務部】

- オープンスクールに参加した中学校と密に連携を図り、さらに積極的な生徒募集を行う。
- 学校ウェブサイト及び学校の魅力化PR等の広報活動をさらに充実させ、多くの方々から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

#### 【全分掌】

- 今後も効率的な会議運営や業務の見直しを進めるとともに、風通しがよく、働きやすい職場環境づくりを推進していく。また、学校の組織的対応を図り、業務の流れを改善し、個々の教職員のモチベーションをアップさせていく。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

- 授業アンケート結果の肯定的回答率(%)は82%と高い結果が出ている。しかし、以前より学力が付いたと感じる生徒は3学年を除いて低い。基本的な内容を中心に授業を進めるとともに、学力向上対策プロジェクトを充実させることにより、学力と進路の保障を行う。
- 生徒指導・保健部の評価がやや厳しいという意見が多い。次年度からの中期経営計画において、学校経営計画の評価指標や目標値を実態を踏まえたものにする。
- 自己肯定感が1学年で低い。高校生活の中で部活動や学習の発表、資格取得、地域連携など活躍の場を与えることにより、自己肯定感を高めることができるようにする
- 学校全体で組織的な対応をすることにより、成果を出し、生徒が来たくなるような学校づくりを行う。

## 令和元年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和元年 10 月 23 日

校番	17	学校名	佐伯高等学校	校長氏名	近藤 哲生	全日制	本校
----	----	-----	--------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐伯高等学校のおかれた環境分析を的確にされ、明確な目標設定をされているが、指標設定のハードルが少し高いと考えられる。計画の設定は妥当である。</li> <li>・指標の設定を改善する必要がある。</li> <li>・もう少し柔軟に目標設定をするとよい。</li> <li>・適切である。</li> <li>・適切である。常に学び合う協働的な教職員チームとして資質向上を継続してほしい。</li> <li>・生徒の授業評価アンケートによると、80%の生徒が肯定的回答をしている。</li> </ul>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の進捗状況は適切に数値化されている。このまま計画どおりに進捗するのではないかとと思われる。</li> <li>・生徒指導・保健部の評価がやや厳しいと思われる。</li> <li>・適切である。</li> <li>・目標設定に少し問題があるため、評価も実態と離れたものがある。</li> <li>・校内授業研究会の参加者が平均 4.5 人とは少し少ない。増やす努力をしてほしい。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向け真摯に取り組んでいる。</li> <li>・社会人としての基礎を養うように生徒を育成している。</li> <li>・厳しい目標に向けて、よく努力されている。</li> <li>・適切である。</li> <li>・勉強も大事であるが、規範意識を養うように教育してほしい。</li> <li>・具体的でよい。</li> <li>・概ね適切である。今後の取組が必要となってくる。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果の分析は数値をあげて明確ではあるが、もともとの指標の設定に課題があると思われる。</li> <li>・生徒指導面の評価がやや厳しいと思われる。</li> <li>・目標設定が厳しすぎるところがあるので、その結果の分析も厳しくなっている。</li> <li>・分析も目標と計画と整合性が取れていてよい。</li> <li>・学校行事に「自分から進んで参加している」、「活動が楽しい」、「生徒どうしが認め合っている」などの項目が 80%以上となっている。</li> <li>・生徒の授業評価アンケートによると、80%の生徒が肯定的回答をしているが、残り約 20%ほどどこに不満があるのか調査分析が必要。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善方策は具体的に書かれている数値目標を上げて方向性をより明確にする必要がある。</li> <li>・今後の「学力向上プロジェクト」の充実を望みたい。</li> <li>・適切である</li> <li>・笑顔であいさつする生徒を育成してほしい。</li> <li>・具体的な改善策が設定されていてよい。</li> </ul>
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね適切であるが、指標設定の改善が必要である。</li> <li>・全教職員が共有できるように、今後の改善方策のより具体的な策定が望まれる。</li> <li>・生徒と先生の信頼関係をもっと深めてほしい。</li> <li>・小規模校の特性を生かした指導の素晴らしさを生徒、保護者にしっかりと説明し、生徒募集につなげてほしい。</li> <li>・先生方はよく努力されているように思われる。生徒の頑張りが評価に現れるような目標が望ましい。</li> <li>・PDCAサイクルに基づいた実施、評価となっており、整合性がついている所が良い。実際の生徒の様子や学校の雰囲気もとてもよく生徒が行きたくなる学校になっている。</li> <li>・概ね適切である。学力向上に力点を置いている点が良い。</li> </ul>



